

めに女性に限定して調査を行ったが、藤本ら(2004)⁴⁾は男性と女性で HQOL の関連因子に違いが見られたと報告している。これらの点を踏まえ、今後さらに評価する項目を増やして HQOL との関連を検討する必要があるであろう。

3) 地域群と施設群の HQOL 関連因子の違い

今回は地域群と施設群で HQOL 関連因子が異なる結果となった。平均年齢や評価指標の違いがあるにせよ、生活環境の違いによって本人が生活の上で重要と考えること、つまり HQOL の関連因子が異なる可能性も考えられ、今後さらなる調査が必要である。

4) 本研究の限界と今後の展望

本研究の限界としては、施設群の対象者が別の研究で既に得られていたデータであったため、地域群と施設群の平均年齢の差が大きかったことや、評価指標を全ては一致させることができなかつたために、厳密な比較はできなかつた点が考えられる。しかし、本研究で対象とした施設の入所者の年齢層は全国の介護施設入所者の年齢層と類似しており(図 1)、一般的な施設の特徴を捉えることはできたのではないかと考えられる。

また今後の展望として、評価する項目を増やしたり対象の幅を広げたりすることで HQOL に影響を与えている因子をより正確に捉えることが可能であると思われる。

身体機能が低いからといって必ずしも HQOL が低いわけではなく、社会交流や人間関係の充実が HQOL を高い水準に保つために大切なことであり、それは地域や施設での介護予防の観点からも重要な課題であると考えられる。

VI. まとめ

地域在住高齢者と介護施設高齢者を対象に、HQOL の関連因子を調べその影響の強さを見るとともに、生活環境の違いにより関連因子に違いがあるかどうかについて検討した。

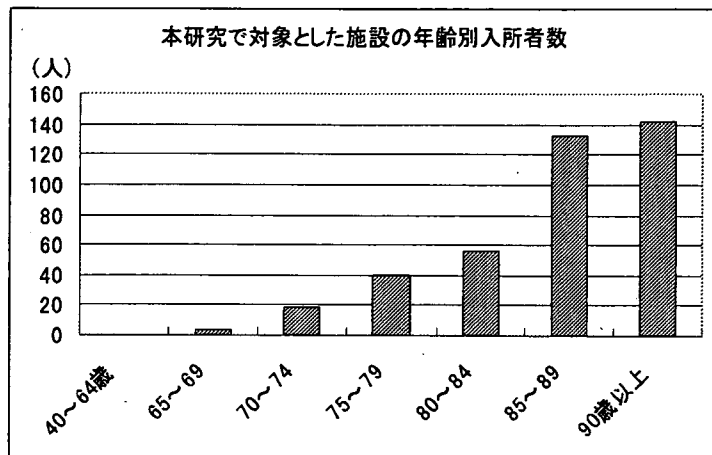
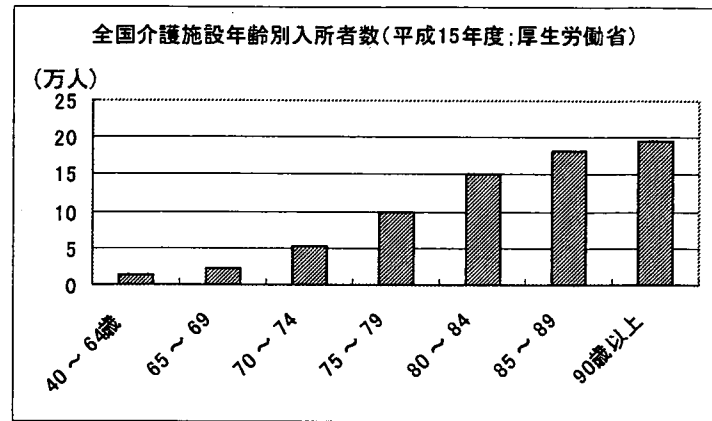


図 1 全国と本研究の年齢階級別介護施設入所者数

- 1) 地域群では PCS には抑うつと転倒不安が、MCS には転倒不安と抑うつが強く関連した。
- 2) 施設群では PCS と転倒不安との関連が見られたが、MCS と関連を示したものはなかった。

このことから高齢者の HQOL には身体機能よりも心の問題が強く影響しており、社会交流や適切なケアにより健康感が維持されるのではないかと推察された。

VII. 謝辞

本研究に参加していただいた転倒予防教室、健康教室、老人クラブ、市民公開講座参加者の皆様、また研究に際しご協力いただいた国立長寿医療センター機能回復診療部長・原田敦先生、名古屋大学医学部老年情報学寄附講座准教授・大西丈二先生、及び名古屋大学総合保健体育科学センター教授・島岡清先生に深く感謝いたします。

VIII. 文献

- 1) 厚生統計協会編：国民の福祉の動向。厚生
生の指標。52(12)：4-12, 2005.
- 2) 厚生省監修：平成 12 年度版 厚生白書。
pp58-85, 2000.
- 3) 出江紳一、鈴鴨よしみ：健康関連 QOL
とリハビリテーション。総合リハビリテ
ーション。33(11)：997-1002, 2005.
- 4) 藤本弘一郎、岡田克俊、泉俊男ら：地域
在住高齢者の生きがいを規定する要因
についての研究。厚生生の指標。51(4)：
24-32, 2004.
- 5) 堤文夫：要介護高齢者の QOL 評価
—SF-36 を用いて—。理学療法学。
34(4)：189-192, 2007.
- 6) 宮原洋八、黒後裕彦：地域在住高齢者
における健康関連 QOL と生活機能、社会
的属性間の関連。健康支援。7(2)：149-152,
2005.
- 7) 萩野浩：大腿骨頸部骨折と QOL。骨粗
鬆症治療。3(2)：134-139, 2004.
- 8) 亀田亮：老人保健施設入所者の QOL 評
価。理学療法探求。第 8 巻：10-14, 2005.
- 9) 田中清、田丸淳子：介護と QOL。骨粗
鬆症治療。3(2)：140-145, 2004.
- 10) 坪山直生、竹村俊一、石橋孝ら：転倒
経験と健康感の関連。Osteoporosis
Japan。12(3)：391-393, 2004.
- 11) 村田伸、津田彰：在宅障害高齢者の転
倒と QOL との関連性。健康支援。7(2)：
141-148, 2005.
- 12) 鈴木みずえ、大山直美、山田紀代美ら：
虚弱高齢者の転倒恐怖感 (Fear of
Falling) と Health-related QOL の関
連性。GERONTOLOGY。13(4)：
487-494, 2001.
- 13) 石原一成、三村達也、弘原海剛ら：老
人保健施設入所女性の ADL と QOL お
よび身体機能との関連性。理学療法科
学。16(4)：179-185, 2001.
- 14) 石原一成、三村達也、弘原海剛ら：在
宅高齢女性の ADL および QOL の関連
性。教育医学。46(5)：1142-1152, 2001.
- 15) 大森純子：前期高齢女性の近隣他者と
の交流関係と健康関連 QOL との関連。
日本公衛誌。54(9)：605-613, 2007.
- 16) 藤井菜穂子、小野玲、米田稔彦ら：老
人福祉センターに通所している地域高
齢者の余暇活動と Quality of Life。神
戸大学医学部保健学科紀要。第 20 巻：
53-59, 2004.
- 17) 今井仁美：生活環境の異なる高齢者の
QOL 比較。名古屋大学医学部保健学科
理学療法学専攻卒業論文集：1-7, 2005.
- 18) Marshal F. Folstein, Susan E. Folstein,
Paul R. McHugh：“MINI-MENTAL
STATE” A PRACTICAL METHOD
FOR GRADING THE COGNITIVE
STATE OF PATIENTS FOR THE
CLINICIAN。Journal of psychiatric
research。12：189-198, 1975.
- 19) J-L. Novella, C. Jochum, J. Ankri,
et al：Measuring general health status
in dementia：Practical and
methodological issues in using the
SF-36。Aging clinical and
experimental research。13(5)：362-269,
2001.
- 20) 福原俊一、鈴鴨よしみ：SF-8 日本語版
マニュアル。pp5-124, 京都, NPO 健康
医療評価研究機構, 2004.
- 21) 福原俊一、鈴鴨よしみ：健康関連 QOL
尺度 SF-8 と SF-36。医学のあゆみ。
213(2)：133-136, 2005.
- 22) Mary E. Tinetti, Donna Richman,
Lynda Powell：Falls efficacy as a
measure of fear of falling。Journal of
Gerontology：PSYCHOLOGICAL
SCIENCES。45(6)：239-243, 1990.
- 23) 内山靖、小林武、潮見泰蔵：臨床評価指
標入門 適用と解釈のポイント (初版)。
pp127-133, 東京, 共同医書出版社, 2003.
- 24) 新開省二：『「閉じこもり」アセスメント
表の作成とその活用法」厚生科学研究所,
ヘルスアセスメントマニュアル—生活
習慣病・要介護状態予防のために—。
pp113-141, ヘルスアセスメント検討委
員会監修, 2000.

- 25) 松林公蔵、小澤利男：評価の方法 d 老年者の情緒に関する評価. *Geriatric Medicine*. 32(5) : 541-546, 1994.
- 26) Sheikh, J.I., Yesavage, J.A., Brooks, J.O. 3d., et al : Proposed factor structure of the Geriatric Depression Scale . *Int.Pshchogeriatr*. 3(1) : 23-28, 1991.
- 27) 竹田徳則、近藤克則、吉井清子ら：居宅高齢者の趣味生きがい—作業療法士による介護予防への手がかりとして. 総合リハビリテーション. 33(5) : 469-476, 2005.
- 28) 加藤智香子、猪田邦雄、長屋正博ら：施設入所高齢者の転倒恐怖と QOL、ADL、身体活動量との関連. *Osteoporosis Japan*. 15(2) : 317-319, 2007.
- 29) 盛内麻美：転倒恐怖に与える影響因子について. 名古屋大学医学部保健学科理学療法学専攻卒業論文集 : 1-7, 2005.
- 30) 葛谷雅文、益田雄一郎、平川仁尚ら：在宅用介護高齢者の「うつ」発症頻度ならびにその関連因子. 日本老年医学会雑誌. 43(4) : 512-517, 2006.
- 31) 蛭江紀雄：老人ホームにおける老人の QOL. 老年精神医学雑誌. 4(9) : 993-998, 1993.
- 32) J E. Birren , J E. Lubben , D E. Deutchman, et al : 虚弱な高齢者の QOL その概念と測定 (三谷嘉明他訳). pp34-61, 東京, 医歯薬出版, 1998.
- 33) 田中清、田丸淳子、高尾文介：老人保健施設入所者の QOL 調査. *Osteoporosis Japan*. 12(3) : 349-351, 2004.